

2025年度 授業シラバス

科目名	PCスキル基礎	必修 選択	必修	年次	2	学科	デジタルメディア科昼間Ⅰ部・Ⅱ部
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4単位)	開講区分	通年

【授業の学習内容】

映像編集の基本を習得すること 後期は自分で企画した作品を完成させること

【到達目標】

編集ソフトウェアの基本的な使い方から応用までをマスターし、映像編集技術を理解し習得する

【教員の略歴】

映像、音楽製作/メディアアーティスト
イベント、ファッションショー、音楽ライブなどのVJ、映像演出、プロジェクションマッピング、近年はV-tuberの技術サポート等
某匿名Vocaloidプロデューサーでありバンドマンでもある

前期		後期	
授業計画・内容		授業計画・内容	
①	編集の基本とコンピュータ	①	タイトル作成2D
②	カメラサイズ ショットの名前	②	タイトル作成3D
③	モンタージュ 絵コンテ1	③	SE BGM サウンド MA
④	モンタージュ 絵コンテ2	④	企画書
⑤	photoshop 基本 顔の修正	⑤	その他ソフトウェア解説
⑥	illustrator 基本 パスとブラシテクニック	⑥	企画チェック
⑦	レイヤーアニメーション(PSD)	⑦	製作1
⑧	キーフレームアニメーション(AE)	⑧	製作2
⑨	3Dレイヤー(AE)	⑨	製作3
⑩	エフェクト	⑩	製作4
⑪	テスト 静止画 そっくり画像を再現	⑪	作品提出 テスト
⑫	編集 テロップ 作成	⑫	製作5
⑬	キー合成 グリーンバック	⑬	製作6
⑭	連携 AEと他のソフト	⑭	最終チェック
⑮	レンダリングについて	⑮	上映
準備学習 時間外学習	お気に入りまたは好きな作品の研究をして構造、つくりのわからないところを質問してください	評価方法	テスト(実技)／出席日数
受講生への メッセージ	好きなことを学べます。あなたの推しへの情熱を、愛を作品で見せてください	使用教科書 教材 参考書	要googleアカウント USBメモリ,HDDまたはSSD等のデータストレージ

2025年度 授業シラバス

科目名	セルフプロデュース	必修 選択	必修	年次	2	学科	デジタルメディア科昼間Ⅰ部・Ⅱ部
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4単位)	開講区分	通年
【授業の学習内容】 フリートークからプレゼン、自己PRまでわかりやすく解説し、分析した後に実践できるようになるまで							
【到達目標】 社会・業界で必要な知識やコミュニケーション力を上げる							
【教員の略歴】 1993年～舞台を中心に活動を始め、現在も俳優・脚本・演出などをこなす。2002年より指導者としても活動、今では講演会を含め日本全国を回る。							

前期		後期	
授業計画・内容		授業計画・内容	
①	連想ゲームからトーク基礎を鍛える	①	第2回クラスでランキング調査(授業のメンバーのいろいろランキング)
②	私について語ってみる	②	第2回クラスでランキング発表(授業のメンバーのいろいろランキング)
③	最近ちょっと思うことを話してみる(これが意外に伝わる)	③	～をPRLしてみる(くだもの編)調査・制作
④	私のちょっとした特技披露(これがけっこうウケる)	④	～をPRLしてみる(くだもの編)発表
⑤	芸能ニュースについて語ってみる	⑤	～をPRLしてみる(国編)調査・制作
⑥	クラスでランキング調査(授業のメンバーのいろいろランキング)	⑥	～をPRLしてみる(国編)発表
⑦	クラスでランキング発表(授業のメンバーのいろいろランキング)	⑦	最近のニュースについて 1
⑧	私の応援歌や元気になる曲を紹介	⑧	最近のニュースについて 2
⑨	私の好きな映画やドラマ、漫画、アニメの名シーン・フレーズを発表	⑨	自分の名前であいうえお作文
⑩	トークの方程式	⑩	大喜利体験
⑪	方程式にそったテーマトーク 1	⑪	クイズ体験
⑫	方程式にそったテーマトーク 2	⑫	映画を5分で紹介 調査・制作
⑬	90秒でトークをまとめる	⑬	映画を5分で紹介 発表
⑭	15秒でトークをまとめる	⑭	面接対策・自己紹介
⑮	400文字トークでテスト	⑮	1年を振り返って
準備学習 時間外学習	いろんなものに興味を持ち会話のネタを探す	評価方法	試験、出席率、授業態度(礼儀マナー)
受講生への メッセージ	誰でも簡単なトークなら話せるようになります	使用教科書 教材 参考書	都度に配布

2025年度 授業シラバス

科目名	スタジオワーク	必修 選択	必修	年次	2	学科	デジタルメディア科昼間Ⅰ部・Ⅱ部
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4単位)	開講区分	通年

【授業の学習内容】
企画・構成・打ち合わせ・生放送の実施 他、「実践」を通して 番組制作における全ての要素を学びます。

【到達目標】
制作コースの人は「魅力のある番組を作る」、DJ/アナ コースの人は「魅力のあるDJ/アナウンサーになる」、また、その作業の中で「チームワークの実践」を学ぶ。

【教員の略歴】
ラジオ番組ディレクター。
配信・映像コンテンツ制作なども担当

前期		後期	
授業計画・内容		授業計画・内容	
①	自己紹介、授業概要 説明 など	①	模擬番組制作③ 発表 B
②	模擬番組制作① 企画	②	模擬番組制作④ 企画
③	模擬番組制作① 構成	③	模擬番組制作④ 構成
④	模擬番組制作① リハーサル	④	模擬番組制作④ リハーサル
⑤	模擬番組制作① 発表 A	⑤	模擬番組制作④ 発表 A
⑥	模擬番組制作① 発表 B	⑥	模擬番組制作④ 発表 B
⑦	模擬番組制作② 企画	⑦	模擬番組制作⑤ 企画
⑧	模擬番組制作② 構成	⑧	模擬番組制作⑤ 構成
⑨	模擬番組制作② リハーサル	⑨	模擬番組制作⑤ リハーサル
⑩	模擬番組制作② 発表 A	⑩	模擬番組制作⑤ 発表 A
⑪	模擬番組制作② 発表 B	⑪	模擬番組制作⑤ 発表 B
⑫	模擬番組制作③ 企画	⑫	模擬番組制作⑥ 企画&構成
⑬	模擬番組制作③ 構成	⑬	模擬番組制作⑥ リハーサル
⑭	模擬番組制作③ リハーサル	⑭	模擬番組制作⑥ 発表 A
⑮	模擬番組制作③ 発表 A	⑮	模擬番組制作⑥ 発表 B
準備学習 時間外学習	特に指定はありませんが、必要に応じて行います。	評価方法	模擬番組制作を通じての評価はもちろん、チームワークの実践を必要とする作業も多いので、出席日数や連絡の有無、授業態度も評価対象とします。
受講生への メッセージ	実践重視の授業です。様々なことを学んでいきますが、特にスタジオワークに関しては、「プロの現場」と「授業で学ぶ内容」は同じことが多いので、卒業後、即戦力になるためにも高い意識を持って臨んでほしいです。	使用教科書 教材 参考書	都度に配布

2025年度 授業シラバス

科目名	コンセプトワーク	必修 選択	必修	年次	2	学科	デジタルメディア科昼間Ⅰ部・Ⅱ部
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4単位)	開講区分	通年
【授業の学習内容】 企画・制作・撮影を通年で繰り返し行い、作品制作を中心に15秒・30秒・3分～5分課題に取り組む。							
【到達目標】 映像コンテンツ制作基礎知識の習得とクリエイティブ能力の創出。企画・制作・撮影を通年で繰り返し行い、作品制作を中心に15秒・30秒・3分～5分課題に取り組む。							
【教員の略歴】 TVCM・PromotionVideo・TV番組など映像コンテンツプロデューサー、ディレクター。							

前期		後期	
授業計画・内容		授業計画・内容	
①	オリエンテーション 授業目標の解説と班分け。	①	Creative WorkShop 班メンバー組換え/企画立案 1
②	Creative Workshop 企画立案 1	②	Creative WorkShop 企画立案 2
③	Creative Workshop 企画立案 2	③	Creative WorkShop 企画立案 3
④	Creative Workshop 制作準備 1	④	Creative WorkShop 制作準備 1
⑤	Creative Workshop 制作準備 2	⑤	Creative WorkShop 制作準備 2
⑥	Creative Workshop 撮影期間	⑥	Creative WorkShop 撮影期間
⑦	Creative Workshop 編集期間	⑦	Creative WorkShop 編集期間
⑧	Creative Workshop 作品提出 PV会	⑧	Creative WorkShop 作品提出 PV会
⑨	Creative Workshop 企画立案 1	⑨	Creative WorkShop 企画立案 1
⑩	Creative Workshop 制作準備 1	⑩	Creative WorkShop 制作準備 1
⑪	Creative Workshop 制作準備 2	⑪	Creative WorkShop 制作準備 2
⑫	Creative Workshop 制作準備 3	⑫	成績判定 制作準備 3
⑬	Creative Workshop 撮影期間	⑬	成績判定 撮影期間
⑭	Creative Workshop 編集期間	⑭	成績判定 編集期間
⑮	Creative Workshop 作品提出 PV会	⑮	成績判定 作品提出 PV会
準備学習 時間外学習	課題提出に関しては、自己管理の下自己研鑽して下さい。	評価方法	試験・出席率・作品評価となります。
受講生への メッセージ	個々に感じているクリエイティブセンスを実践の中でさらに磨いて下さい。楽しい映像作品と一緒に作りましょう！	使用教科書 教材 参考書	USBメモリー

2025年度 授業シラバス

科目名	映像制作	必修 選択	必修	年次	2	学科	デジタルメディア科昼間Ⅰ部・Ⅱ部
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8単位)	開講区分	通年
【授業の学習内容】 映像制作のワークフローをより深くそして多角的に学び、企画力・演出力・技術力を向上する							
【到達目標】 1つ目は、興行ベースの制作現場に入ることができ、卒業後にはプロの一員として現場の即戦力として活躍できる人材育成を目指す 2つ目は、興行できるほどの高度な映画制作の企画・制作ワークフローを習得すること							
【教員の略歴】 数々の作品の企画プロデュース・キャスティング・制作全て担当							

前期		後期	
授業計画・内容		授業計画・内容	
①	ガイダンス&・歴代卒業制作作品鑑賞	①	撮影実践ワークショップ⑤_映像演技合同
②	映像制作実習Ⅲ_演出・企画・シナリオ①	②	卒業制作_撮影週間①
③	撮影実践ワークショップ①_映像演技合同	③	卒業制作_撮影週間②
④	映像制作実習Ⅲ_制作準備①	④	卒業制作_撮影週間③
⑤	映像制作実習Ⅲ_制作準備②	⑤	撮影実践ワークショップ⑥_映像演技合同
⑥	映像制作実習Ⅲ_撮影演習①	⑥	卒業制作_ポストプロ週間①(オフライン)
⑦	撮影実践ワークショップ②_映像演技合同	⑦	卒業制作_ポストプロ週間②(オフライン)
⑧	映像制作実習Ⅲ_撮影演習②	⑧	卒業制作_ポストプロ週間③ピクチャーロック
⑨	映像制作実習Ⅲ_ポストプロダクション演習①	⑨	撮影実践ワークショップ⑦_映像演技合同
⑩	撮影実践ワークショップ③_映像演技合同	⑩	卒業制作_ポストプロ週間④((オンライン、MA、カラコレ)
⑪	映像制作実習Ⅲ_ポストプロダクション演習②	⑪	撮影実践ワークショップ⑧_映像演技合同
⑫	映像制作実習Ⅱ_上映会 卒業制作_____企画プレゼン/班分け(2-3班)	⑫	卒業制作_ポストプロ週間⑤(オンライン、MA、カラコレ)
⑬	撮影実践ワークショップ④_映像演技合同	⑬	卒業制作_ポストプロ週間⑥(オンライン、MA、カラコレ)
⑭	卒業制作_プリプロ①オーディションカメラテスト	⑭	撮影実践ワークショップ⑨_映像演技合同
⑮	卒業制作_プリプロ①衣装合わせ&カメラテスト	⑮	卒業制作_作品上映会_提出
準備学習 時間外学習	毎月教材提示(映画・ドラマ・小説など)	評価方法	試験、授業への積極参加と、成果物
受講生への メッセージ	即戦力として卒業後に活躍できることを最終戦に授業を組みます	使用教科書 教材 参考書	授業内で使用する映画について 初回ガイダンス時に作品提示

2025年度 授業シラバス

科目名	映像編集	必修 選択	必修	年次	2	学科	デジタルメディア科昼間Ⅰ部・Ⅱ部
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8単位)	開講区分	通年
【授業の学習内容】 映像を使って他人にプレゼンテーションできる能力、技術を学びます							
【到達目標】 前期は主にソフトウェアのより詳しい使い方を習得すること 後期は自分で企画した作品を完成させること							
【教員の略歴】 映像、音楽製作/メディアアーティスト、イベント、ファッションショー、音楽ライブなどのVJ、映像演出、プロジェクションマッピング、V-tuberの技術サポート等							

前期		後期	
授業計画・内容		授業計画・内容	
①	編集の基本とコンピュータ	①	photoshop上級 (タイトル、テロップ)
②	カメラサイズ ショットの名前	②	illustrator上級 (タイトル、テロップ)
③	モンタージュ 絵コンテ1	③	aftereffects プリコン
④	モンタージュ 絵コンテ2	④	アルファチャンネル合成
⑤	photoshop 基本 顔の修正	⑤	パーティクル(2D) AE
⑥	illustrator 基本 パスとブラシテクニク	⑥	パーティクル(3D)
⑦	レイヤーアニメーション(PSD)	⑦	モーショントラッキング1
⑧	キーフレームアニメーション(AE)	⑧	モーショントラッキング2
⑨	3Dレイヤー(AE)	⑨	フライングロゴ1
⑩	エフェクト	⑩	企画書について
⑪	テスト 静止画 そっくり画像を再現	⑪	実写合成1
⑫	編集 テロップ 作成	⑫	実写合成2
⑬	キー合成 グリーンバック	⑬	実写合成3(動画)
⑭	連携 AEと他のソフト	⑭	実写合成4(動画)
⑮	レンダリングについて	⑮	提出/アップロード
準備学習 時間外学習	押しへの愛を存分に暖めておく	評価方法	テスト(実技)／出席日数
受講生への メッセージ	大事なのは情熱でスキルではありません	使用教科書 教材 参考書	要googleアカウント USBメモリ,HDDまたはSSD等のデータストレージ

2025年度 授業シラバス

科目名	ムービーテクニック	必修 選択	必修	年次	2	学科	デジタルメディア科昼間Ⅰ部・Ⅱ部
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8単位)	開講区分	通年

【授業の学習内容】

映画・ドラマ・番組・CM・SNS動画などから映像テクニックが使われているシーンを紹介。
 学生たちにはそのテクニックによって表現されていることや効果などをディスカッション～言語化(語釈)してもらいます。
 さらにそのテクニックを使ったショート動画を制作(用例)してもらい、オリジナルの動画付き「映像テクニック辞典」を作成していきます。

【到達目標】

1年次で学び・経験した映像テクニックを深掘り・応用し、演出の引き出しを増やす。
 また授業以外でも毎日見る様々な映像からそれがどのようなテクニック(要素)が組み合わさって出来ているのかを見出す力を身につけてもらう。演出のアイデアが生まれる演出脳を鍛え、自身の創作において「悩む」のではなく「迷う」くらい映像プランが浮かぶようになってもらう。

【教員の略歴】

大阪の制作会社でテレビ番組を、CS専門チャンネルでは音楽番組などを制作。
 その後、フリーランスとして番組及び企業映像を演出制作してきました。

前期		後期	
授業計画・内容		授業計画・内容	
①	取材型自己紹介 ゲームクリエイター水口哲也氏「欲求が未来を作る」	①	時間を操るテクニック「ストップモーション」・ 「スローモーション」・「早送り」・「ジャンプカット」
②	辞書作りを描いた映画「舟を編む」から語釈と用例を 理解する～この授業の狙いを説明	②	過去と未来のイメージ「モノクロ」・「セピア」・ 「ソフトフォーカス」・「ハイキーライト」
③	映像作家・丹下紘希氏「神の視点」 カメラサイズ(どんなサイズで撮るか)	③	シーンの転換① 「ワイプ」・「オーバーラップ」・「フェードイン・アウト」・ 「フォーカスイン・アウト」・「フレイムイン・アウト」
④	カメラポジション(どこから撮るか)	④	シーンの転換② 「シャッター」・「スウィッシュ」・「フラッシュ」
⑤	構図(何を伝えるか、そして映像のリズム)	⑤	シーンの転換③「インサートカット」
⑥	カメラワーク(どんな動きで撮るか)	⑥	シーンの転換④「映像の韻」
⑦	撮影の大原則「イマジナリーライン」と「ドンデン撮り」	⑦	その他「画面分割」・「ルックアウト」など
⑧	映像の根幹的なテクニック「カットバック」	⑧	映画監督・行定勲氏から学ぶ
⑨	映像作家・真島理一郎「アイデア」 映像が総合芸術と言われる由縁「モンターージュ」①	⑨	映画監督・清水崇氏から学ぶ
⑩	映像が総合芸術と言われる由縁「モンターージュ」②	⑩	脚本家・渡辺あや氏から学ぶ
⑪	映像の根幹的なテクニック「カットバック」	⑪	CMプランナー・多田琢氏から学ぶ
⑫	強調のテクニック「マルチカット」と「カットズームイン」	⑫	これまで学んだテクニックをできるだけ盛り込んだ ショートムービーの企画・制作
⑬	これまで学んだテクニックをできるだけ盛り込んだショート ムービーの企画会議	⑬	これまで学んだテクニックをできるだけ盛り込んだ ショートムービーの企画・制作
⑭	これまで学んだテクニックをできるだけ盛り込んだ ショートムービーの撮影・編集	⑭	プレビュー会(試験として内容を評価します)
⑮	プレビュー会(試験として内容を評価します)	⑮	授業の総括
準備学習 時間外学習	日々、目にするあらゆる映像や情報から気になる演出や新たな 発見をノート、スマホ、SNSなどのツールにストックしインプットと アウトプットを習慣付けて下さい。つまり授業以外の時間も常に 学習です。	評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■みんなが作る映像テクニック辞典の充実度 ■テクニックを盛り込んだショートムービーの完成度 ■試験・出席率
受講生への メッセージ	言語化できたら必ず映像化できます！なので、言葉にこだわり ながら映像の勉強していきましょう！	使用教科書 教材 参考書	特にありません。 必要な場合は、プリントを配布します。

2025年度 授業シラバス

科目名	ステージワーク	必修 選択	必修	年次	2	学科	デジタルメディア科昼間Ⅰ部・Ⅱ部
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8単位)	開講区分	通年
【授業の学習内容】 実践を通して舞台の日常を伝える							
【到達目標】 しっかりとした技術と知識、そして気持ちを持ち表現者に寄り添える舞台人の育成							
【教員の略歴】 数々の演劇、ミュージカル、オペラダンスの舞台監督を担当							

前期		後期	
授業計画・内容		授業計画・内容	
①	舞台機構を知る(1)	①	前期の復習
②	舞台用語を知る(2)	②	舞台監督と制作の仕事の割り振り
③	見切れ(サイトライン)を知る	③	ミツバチの会議
④	アクティングエリアと導線を知る	④	台本を読み取り必要な道具、情景描写を書き出す。(1)
⑤	舞台平面図の書き方(1)	⑤	台本を読み取り必要な道具、情景描写を書き出す。(2)
⑥	舞台平面図の書き方(2)	⑥	台本を読み取り必要な道具、情景描写を書き出す。(3)
⑦	舞台監督と制作の役割	⑦	タイムスケジュールの解体と構築
⑧	ロブワーク	⑧	タイムスケジュールの解体と構築
⑨	図面のトレース	⑨	制作と舞台監督の打ち合わせの仕方
⑩	ミュージカル制作(1)組織作り	⑩	制作と舞台監督の打ち合わせの仕方
⑪	ミュージカル制作(2)必要な物の拾い出し	⑪	公演に向けての組織作り
⑫	ミュージカル制作(3)台本に沿っての転換確認	⑫	公演のテーマ作成(1)
⑬	ミュージカル制作(4)大道具のリスト作成、積込確認	⑬	公演の制作(1)
⑭	ミュージカル段取り	⑭	ミュージカル段取り
⑮	前期 まとめ 反省	⑮	まとめ
準備学習 時間外学習	毎授業の復習を心掛けてください。	評価方法	試験/講義内容の理解度/授業の態度/積極性
受講生への メッセージ	日々色々なアンテナを張り「よく見て、聞いて、感じ、考え、答えを出せるように心がけて下さい。」	使用教科書 教材 参考書	授業用資料(舞台図面など)

2025年度 授業シラバス

科目名	PAテクニック	必修 選択	必修	年次	2	学科	デジタルメディア科昼間Ⅰ部・Ⅱ部
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8単位)	開講区分	通年
【授業の学習内容】 前期は機材の組み方や仕組みを理解し、学内イベントなどに参加できる基礎力を養う 後期は学内外イベントでオペレートができるようになるためのトレーニング							
【到達目標】 機材の操作、仕組みを知ることの楽しさを知ること。 出演者、他セクションのスタッフ達と一緒に作品やイベントに取り組むことの楽しさを知る							
【教員の略歴】 宝塚ショーなどを担当。ダンスイベントや音楽イベントなど、関西中心に活躍中。							

前期		後期	
授業計画・内容		授業計画・内容	
①	マイクケーブル、マイクスタンド	①	前期のおさらい
②	マイクの配線 マイクケーブル、マルチケーブル	②	イコライザー
③	マイクの仕組み 特性 指向性	③	システムチューニング アナログ
④	スタンド、スピーカー	④	ワイヤレスマイク②AT
⑤	スピーカー配線、スピーカーケーブル	⑤	進路ミュージカル対策1
⑥	スピーカーの仕組み	⑥	進路ミュージカル対策2
⑦	回線表 簡易システム構築	⑦	再生機
⑧	回線表 学内小規模イベントシステム構築	⑧	学内中規模イベント対策
⑨	電源	⑨	大型スピーカー①
⑩	アナログミキサー 1	⑩	大型スピーカー②
⑪	アナログミキサー 2	⑪	ここまでのおさらい 後期試験対策口
⑫	エフェクター空間系	⑫	後期試験
⑬	ワイヤレスマイク①SHURE	⑬	進級公演対策①
⑭	ワイヤレスマイク②SHURE	⑭	進級公演対策②
⑮	前期まとめ	⑮	進級公演対策③
準備学習 時間外学習	復習をすること	評価方法	試験、出席と授業態度を重視します
受講生への メッセージ	日本一と言われる音響を目指しましょう	使用教科書 教材 参考書	その都度プリントにて配布する

2025年度 授業シラバス

科目名	ライティングテクニック	必修 選択	必修	年次	2	学科	デジタルメディア科昼間Ⅰ部・Ⅱ部
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8単位)	開講区分	通年
【授業の学習内容】 照明の基本知識の学び、実践を繰り返し行うことで技術の習得する							
【到達目標】 音響、制作が照明の基礎を学び、照明の楽しさを学ぶ。							
【教員の略歴】 数多くの芝居、ミュージカルの照明オペレーターとして活躍。							

前期		後期	
授業計画・内容		授業計画・内容	
①	照明機材について①	①	劇場の機構について
②	照明機材について②	②	効果器具について①
③	作業時の安全管理/ケーブル処理について	③	効果器具について②
④	カラーフィルターについて	④	電気容量について/ケーブルの種類
⑤	ピンスポットの基本操作	⑤	調光卓について(パッチ・エフェクト)
⑥	照明仕込図・テンプレートについて	⑥	調光卓について(エフェクト)
⑦	回路取り・パッチ作業	⑦	調光卓について(サブマスター)
⑧	調光卓について(パッチ・エフェクト)	⑧	調光卓について(CUE)
⑨	シュート	⑨	調光卓について(まとめ)
⑩	LED照明について	⑩	DMX信号について/電源方式
⑪	LED照明の仕込み方	⑪	照明プランニング①
⑫	仕込み～撤収までの流れについて	⑫	照明プランニング②
⑬	音のきっかけ、明かり作り方	⑬	照明プランニング
⑭	舞台照明の名称と役割①	⑭	ムービングライト①
⑮	舞台照明の名称と役割②	⑮	ムービングライト②
準備学習 時間外学習	学習した事の復習	評価方法	出席・授業態度・試験を総合的に評価する
受講生への メッセージ	動きやすい服装で受講すること	使用教科書 教材 参考書	USB

2025年度 授業シラバス

科目名	パフォーマンステクニック	必修 選択	必修	年次	2	学科	デジタルメディア科昼間Ⅰ部・Ⅱ部
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8単位)	開講区分	通年

【授業の学習内容】
発声の為の身体訓練…ストレッチ・筋肉トレーニング・中心呼吸・身体の姿勢と全身のコントロール

【到達目標】
身体の骨格や筋肉を知覚し、可動域をひろげると共に筋力を養う。表現者に必要な身体の土台を作る

【教員の略歴】
ヴォイス&ボディトレーニング講座及び舞台表現ゼミ講座を立ち上げ、指導を行う

前期		後期	
授業計画・内容		授業計画・内容	
①	身体の説明 ①骨格脊柱 ①体幹部の筋肉 身体を手で触る動かす Barレッスン開始	①	身体の動き 体重移動 ウォーキング/クロスフロアー/アイソレーションB
②	呼吸の説明 腹式と胸式説明 肺の構造 顔のストレッチ 皮膚体操	②	身体の動き 体重移動 クロスフロアー/重力の認識
③	身体の説明 ②骨格骨盤 ②腹筋と大殿筋 曲げる伸ばす 身体のライン矯正	③	身体の動き 体重移動 クロスフロアー/ステップと発声
④	呼吸の説明 腹式チェック 交感神経と深呼吸/鼻呼吸 コントラクションとリリース	④	身体の創作 エアークontakt ペアワーク
⑤	身体の説明 ③骨格頭蓋骨 ③表情筋 皮膚体操/口腔内ストレッチ/変顔リリース	⑤	身体の創作 エアークontakt グループコピー編
⑥	呼吸の説明 発声のメカニズム 響きの確認/声帯と舌根について説明	⑥	身体の創作 ワードによるインプロムーブメントA
⑦	身体の説明 ④骨格上肢 ④腕の筋肉 椅子に座ってのストレッチアームワーク/アイソレーション手首編	⑦	身体の創作 ワードによるインプロムーブメントB
⑧	身体の説明 ⑤骨格下肢 ⑤足の筋肉 椅子ストレッチ レッグワーク/アイソレーション足首編	⑧	ダンスのワーク コンビネーション 腕と上半身で構成
⑨	動きのワーク エクササイズ/アイソレーションA/Bar	⑨	ダンスのワーク コンビネーション 足のリズム・TAP要素で構成 第九の替え歌口の練習
⑩	動きのワーク フロアーストレッチとムーブメントSLOW	⑩	ダンスのワーク コンビネーションA 全身・トータルの動きで構成 第九の替え歌口の練習
⑪	動きのワーク フロアーストレッチとムーブメントFAST	⑪	ダンスのワーク コンビネーションB 全身・トータルの動きで構成 第九の替え歌口の練習
⑫	身体の動きと発声 50音	⑫	後期試験 3項目 Barレッスンの習得度/アイソレーション 組み合わせの習得度/ダンスコンビネーション習得度
⑬	身体の動きと発声 リズムと50音	⑬	グループワーク オノマトペと身体創作
⑭	身体の動きと発声 ステップとリズムと50音	⑭	グループワーク オノマトペと身体創作
⑮	前期試験 3項目 ストレッチ習得度/アイソレーション習得度/50音発声習得度	⑮	グループワーク オノマトペと身体創作
準備学習 時間外学習	各自、ストレッチ・腹筋と背筋、体感トレーニング	評価方法	毎回の受講態度及び試験内容 出席率による採点
受講生への メッセージ	スカート不可、ストレッチが可能で身体のラインが見える服装 シューズは無し	使用教科書 教材 参考書	バーレッスンのため、バレエBar 各自すべり止め付の靴下 身体のラインが見える服装

2025年度 授業シラバス

科目名	ヴォイス&ヴォーカル	必修 選択	必修	年次	2	学科	デジタルメディア科昼間Ⅰ部・Ⅱ部
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8単位)	開講区分	通年

【授業の学習内容】

- ・発声練習
- ・課題曲を練習する事で歌詞の意味を考え、表現する事を練習する。(音の強弱やニュアンス、アクセントなど)

【到達目標】

シンガーとしての魅せ方、ユニットの中での個人の魅せ方を習得し、パフォーマンス力・表現力を高める。
また、個人プレーでは成り立たない、チームプレーの難しさ・チームワークの重要性を学び、コミュニケーション力の強化を目的とする。

【教員の略歴】

ソロシンガーとしてイベント・ディナーショー・アーティストのサポート・テーマパークシンガー・CMソングなど多数出演する。と同時にクワイアーのソリスト・講師として東京・名古屋・大阪・京都など各地で精力的に活動。

前期		後期	
授業計画・内容		授業計画・内容	
①	自己紹介 今年度と上半期の各自目標設定 自主目標設作成、発声基礎	①	年間目標にむけての下半期目標設定
②	一人ずつ歌唱 レベルチェック 発声基礎	②	発声練習、課題曲を用いて練習、歌唱指導①
③	ストレッチ、発声基礎 課題曲を用いて練習①	③	発声練習、課題曲を用いて練習、歌唱指導②
④	ストレッチ、発声基礎 課題曲を用いて練習②	④	発声練習、課題曲を用いて練習、歌唱指導③
⑤	ストレッチ、発声基礎 課題曲を用いて練習③	⑤	発声練習、課題曲を用いて練習、歌唱指導④
⑥	ストレッチ、発声基礎 課題曲を用いて練習④	⑥	イベントを想定しての歌唱指導①
⑦	ストレッチ、発声基礎 イベントを想定して課題曲を決め練習、歌唱指導①	⑦	イベントを想定しての歌唱指導②
⑧	ストレッチ、発声基礎 イベントを想定しての課題曲を練習、歌唱指導②	⑧	イベントを想定しての歌唱指導③
⑨	ストレッチ、発声基礎 イベントを想定しての課題曲を練習、歌唱指導③	⑨	イベントを想定しての歌唱指導④
⑩	ストレッチ、発声基礎 イベントを想定しての課題曲を練習、歌唱指導④	⑩	イベントを想定しての歌唱指導⑤
⑪	イベントを想定して課題曲を発表 レベルチェック 現状の確認 夏季休暇中の課題決め	⑪	レベルチェック 現状の確認
⑫	夏季休暇中の課題チェック 一人ずつ歌唱しレベルチェック 現状の確認	⑫	一人ずつ歌唱しレベルチェック 現状の確認
⑬	ストレッチ、発声基礎 課題曲を用いて練習	⑬	一人ずつ歌唱しレベルチェック 現状の確認
⑭	試験でチェックした課題を用いて 歌唱指導	⑭	試験でチェックした課題を用いて、イベントを想定しての歌唱指導
⑮	試験でチェックした課題を用いて 歌唱指導	⑮	総まとめ 一年間の振り返りと今後の目標設定
準備学習 時間外学習	課題曲の練習と授業で指摘した事についての自主練習	評価方法	実技テスト①歌唱力(声量・音程) ②表現力(アクセント・抑揚・フェイク)について評価する 技能レベル、技能習熟度、授業に対しての積極性、出席率
受講生への メッセージ	歌を通して色々な表現方法を身に付けて欲しいと思います。	使用教科書 教材 参考書	マイク(SM58)

2025年度 授業シラバス

科目名	ダンスパフォーマンステクニック	必修 選択	必修	年次	2	学科	デジタルメディア科昼間Ⅰ部・Ⅱ部
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8単位)	開講区分	通年
【授業の学習内容】 音楽に合わせて、リズムをとりながらステップやアイソレーションなど踊りの基礎となる動きを主に進めていき、ダンスのスキルも向上させていきます。							
【到達目標】 個人のスキルアップとともにグループ行動の大切さを知り、いろいろなことに対して自主性を持たす。							
【教員の略歴】 数々のダンス大会にて優勝、パフォーマーとしてステージに立ちバックダンサーなどの務める							

前期		後期	
授業計画・内容		授業計画・内容	
①	自己紹介・リズムワーク・アイソレーション・ステップ	①	ソロパフォーマンス練習
②	リズムワーク・アイソレーション・ステップ	②	振り付け講座(生徒)
③	リズムワーク・アイソレーション・ステップ	③	振り付け講座(生徒)
④	リズムワーク・アイソレーション・ステップ	④	振り付け
⑤	振り付け	⑤	振り付け
⑥	振り付け	⑥	発表
⑦	発表	⑦	振りつけ 評価
⑧	振りつけ 評価	⑧	構成講習
⑨	音楽編集講座	⑨	構成講習
⑩	音楽編集講座	⑩	作品作り
⑪	振り付け	⑪	作品作り
⑫	振り付け	⑫	ダンスで活躍するには
⑬	振り付け	⑬	作品作り
⑭	ソロパフォーマンス練習	⑭	作品作り
⑮	ソロパフォーマンス練習	⑮	発表(生徒作作品)
準備学習 時間外学習	毎週の授業でやった事を、少しずつでも練習して下さい。	評価方法	日々の学校内での態度、従業中の集中度、ダンスに対する熱量など全てを加味します。
受講生への メッセージ	ダンスを今後の人生でどの様に活動していくかなど、アドバイスもします！ぜひチャレンジしてみましょう！	使用教科書 教材 参考書	音楽・DVDを使用します

2025年度 授業シラバス

科目名	ヘアスタイリング	必修 選択	必修	年次	2	学科	デジタルメディア科昼間Ⅰ部・Ⅱ部
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8単位)	開講区分	通年
【授業の学習内容】 舞台・映像それぞれの必要な技術基本→応用、技法知識							
【到達目標】 色々な技法を知り、応用力を身につける。コンセプト、イメージに合う知識、技術、再現力							
【教員の略歴】 美容師、セラピスト等を経て、現在ヘアメイクとして活動中。(スクール撮影、TVロケ等) ザフェイスメイクオフィス所属。ゲームやアニメなどの2.5次元系、ロリータ、ゴシック、モノマネ等の独特なヘアメイクが特に得意で、コスプレウィッグ作りを作成する事もある。							

前期		後期	
授業計画・内容		授業計画・内容	
①	ドールヘアメイク マット陶器肌	①	カツラ下作り、テーピング、手入れ
②	3Dメイク・海外 コントゥアリング	②	男装 ヘアメイク (ヘアネット・テーピング使用)
③	カラフルメイク ブレンディング・ぼかし	③	2.5次元 メイク 映像 (ヘアネット・テーピング使用)
④	ヘア バリエーション、前髪セット強化	④	2.5次元 メイク 舞台 (ヘアネット・テーピング使用)
⑤	ライティングを意識したメイク 撮影	⑤	特殊メイク クリーチャー
⑥	ショーガールヘアメイク パレード 日光	⑥	アメコミメイク 現実味を消せるか・再現性
⑦	ショーガールヘアメイク パーレスク ライト光	⑦	宝塚舞台 メイク
⑧	フェイスペイントメイク ポイント	⑧	ハロウィンヘアメイク 各々のテーマで
⑨	フェイスペイントメイク 異種肌	⑨	ヴィジュアル系メイク
⑩	特殊メイク アザ、傷 ① 軽め	⑩	ロリータ ヘアメイク
⑪	特殊メイク アザ、傷 ② 重症	⑪	モノマネ ヘアメイク
⑫	老婆 ヘアメイク	⑫	60's・70's 洋レトロ ヘアメイク
⑬	90's 子ギャル ヘアメイク	⑬	苦手分野 チェック
⑭	汚し ヘアメイク	⑭	各々テーマ 映像ヘアメイク
⑮	苦手分野 チェック	⑮	各々テーマ 舞台ヘアメイク
準備学習 時間外学習	復習、練習、研究 次回授業の持ち物は必ず確認	評価方法	試験、出席日数、授業態度、期間最終技術状況から評価
受講生への メッセージ	基礎→応用の順に授業を組んでいます。1年度よりかなり濃いめの授業内容ですが、中々やらないヘアメイクなので楽しく学び、知識や力をつけましょう。特殊なメイク、場所であるほどヘアメイク対象の方は大変です。ケアも一緒に学びましょう。	使用教科書 教材 参考書	ウィック・クランプ・コーム・ブラシセット・ゴム・ホットカーラー・アイロン・モタボ・筆記用具 ヘアメイク教材一式

2025年度 授業シラバス

科目名	メイクテクニク	必修 選択	必修	年次	2	学科	デジタルメディア科昼間Ⅰ部・Ⅱ部
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8単位)	開講区分	通年

【授業の学習内容】

前期:メイクアップ技術検定を通して、基礎的なメイクアップ技術、知識、衛生観念、接客マナーを学びます。後期:成人式ヘアメイクを通して、基本のヘアセット、流行りのヘアメイク、時間を意識した仕上げ方を学びます。

【到達目標】

前期:JMAメイクアップ技術検定2級、3級合格。後期:成人式に合わせたヘアセットとメイクが30分程度で仕上げられるようになる。基本的なヘアセット技術を身につける。

【教員の略歴】

ヘアメイク歴15年。ブライダル、スチール撮影、映像、舞台等でヘアメイクとして活躍。個性を伸ばし、コンプレックスをカバーするその人の為だけのヘアメイクデザインの提案が得意。特に40代以上のヘアメイク、繊細に作り込んだエレガントなヘアメイクが得意。

前期		後期	
授業計画・内容		授業計画・内容	
①	セッティング、メンテナンス方法、ティッシュとタオルの準備	①	カーラー、コテ、逆毛等の基本知識と技術。取り扱い。
②	肌構造、肌に合わせたケア方法、アドバイスと提案	②	ポニーテールと、そのアレンジ 玉ねぎヘア等のアレンジ
③	3級ベース スキンケア～パウダー、ハイ・ローライト	③	編み込みを使ったアレンジ、フルールヘア
④	2級スキンケア スキンケア～ベース	④	ウェーブを使ったシニヨンスタイル、崩し方のコツ、美しいバランス
⑤	2級 ポイントメイク 基本のアイブロウ、アイメイク	⑤	ウェーブとカールで仕上げるアップヘア、毛先をちらす方法
⑥	2級ポイントメイク チーク、リップ、仕上げ	⑥	強度をつけた編み下ろしスタイル、
⑦	2級ポイントメイク スキンケア～仕上げ	⑦	基本の和装、かぶせと立ち上げた前髪
⑧	3級通し セッティング～仕上げ	⑧	さまざまなヘアスタイル、模写ヘア
⑨	2級通し セッティング～仕上げ	⑨	基本的な髪飾り、金箔、水引、パールの置き方。アップヘア、編み下ろし、ポニテでの応用
⑩	モデル練習 3級 仕込み方法と、モデルに合わせたメイクの提案	⑩	時短メイクと、前髪と後毛、アシスタント練習
⑪	モデル練習 2級 モデルに似合うポイントメイクの確認	⑪	接客ロープレ 成人式ヘアメイク
⑫	苦手克服、手技チェック	⑫	成人式ヘアメイク 技術テスト
⑬	復習、模擬試験2級3級(モデル練習)	⑬	卒業式袴ヘアセット ハーフアップのアレンジ
⑭	復習、模擬試験2級3級(モデル練習)	⑭	ダウンスタイル、巻き下ろし、舞台、ステージでの応用術。ダウンスタイルでの飾りの付け方
⑮	検定試験	⑮	新日本髪(桃割)
準備学習 時間外学習	自宅でもイメトレや練習をして、手技を覚えましょう。後期では実際に成人式等の現場でお客様へヘアメイクをします。	評価方法	出席率、授業態度、実技試験から総合的に評価します。
受講生への メッセージ	前期は覚える事が多く、地道な練習となりますが、メイクアップに関する基本的な技術がしっかりと身に付きます。最初は難しく感じるでしょうが、十分合格できる難易度です。後期は実践を繰り返して様々なヘアスタイルを作っていきます。すぐに仕事に繋がられる技術が身につきます。ヘアメイクのことがもっと好きになれるよう、楽しく授業していきたいです。	使用教科書 教材 参考書	JMAメイクアップ技術検定公式テキスト2級3級。足りない道具があれば各自で買い足して頂きます。(ティッシュ、コットン、綿棒等の消耗品、タオル、おしぼり、手鏡、リップクリーム等)

2025年度 授業シラバス

科目名	ファッションスタイリング	必修 選択	必修	年次	2	学科	デジタルメディア科昼間Ⅰ部・Ⅱ部
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8単位)	開講区分	通年
【授業の学習内容】 ファッション&スタイリングの知識と技術をさらに深める							
【到達目標】 社会人として現場に立った時に戦力として動けるための最低限に知識と技術を習得する							
【教員の略歴】 スチールや映像のスタイリングとディレクションや、舞台衣装監修、飲食店のフロアデザイン等を手掛ける							

前期		後期	
授業計画・内容		授業計画・内容	
①	パジャマデザイン	①	リメイク製作1
②	ミシン演習1	②	リメイク製作2
③	ミシン演習2	③	リメイク製作3
④	ミシン演習3	④	リメイク製作4
⑤	ソーイング:パジャマ製作1	⑤	リメイク製作5
⑥	ソーイング:パジャマ製作2	⑥	パンツ製作1
⑦	ソーイング:パジャマ製作3	⑦	パンツ製作2
⑧	ソーイング:パジャマ製作4	⑧	パンツ製作3
⑨	ソーイング:パジャマ製作5	⑨	パンツ製作4
⑩	シャツ製作1	⑩	パンツ製作5
⑪	シャツ製作2	⑪	撮影現場について
⑫	シャツ製作3	⑫	撮影実践1(ジュエリーブランド)リサーチ・衣装&メイク検討
⑬	シャツ製作4	⑬	撮影実践1:衣装ピック&撮影準備
⑭	シャツ製作5	⑭	撮影実践1:スタジオにて撮影実施
⑮	作品総評	⑮	総評
準備学習 時間外学習	プレゼン準備、現場実習	評価方法	小テストやプレゼン作品による評価出席率・授業態度
受講生への メッセージ	ファッションにおける情報格差がなくなった今だからこそ、洋服を選ぶ審美眼を磨いていきましょう	使用教科書 教材 参考書	適宜用意

2025年度 授業シラバス

科目名	キャリア教育	必修 選択	必修	年次	2	学科	デジタルメディア科昼間Ⅰ部・Ⅱ部
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4単位)	開講区分	通年

【授業の学習内容】

合同企業説明会や企業訪問などを通して、業界の方と接点を多く設ける。

【到達目標】

1年次で形成した自身のキャリアを基盤に、将来の進路に必要なものを逆算し、それらを育む。

【教員の略歴】

秘書検定1級・ビジネス技能検定・サービス接遇準1級を取得し、大学・専門学校で約20年秘書検定、ビジネスマナー、就職指導を担当しています。

前期		後期	
授業計画・内容		授業計画・内容	
①	スケジュール把握による時間管理向上と前期に向けて(PDCAサイクル)	①	スケジュール把握による時間管理向上と前期の振り返り・後期に向けて(PDCAサイクル)
②	就職対策講座① 会社リサーチ	②	マネー教育 ライフプランを考え、自身のキャリアとのバランス感覚を身に付ける
③	就職対策講座② 履歴書の書き方	③	体育祭 チームワークとリーダーシップをスポーツを通して学ぶ
④	就職対策講座③ エントリーシート対策	④	社会貢献ミュージカル エンターテイメントで社会貢献が出来る事を改めて認識する機会とする
⑤	就職対策講座① 面接対策	⑤	デビューガイダンス①(オータム内) 自己PRを考え自分の強みと弱みを検討
⑥	ITガイダンス&ITリテラシーの重要性 【付与資格】IT理解度テストロゴ承認によりFreeWi-fi使用可	⑥	デビューガイダンス②(オータム内) セルフプロデュース力の強化を通して自己分析を図る
⑦	プロモーションツール制作① 個々の武器となるスキルや表現力見極めそれぞれの感性をさらに磨いていく	⑦	模擬オーディション(オータム内) 本番を想定したプレゼンで自己表現力を磨く
⑧	プロモーションツール制作② 個々の武器となるスキルや表現力見極めそれぞれの感性をさらに磨いていく	⑧	デビュー出陣式 進路先が決定している先輩からの講話を拝聴し、自身の方向性を定めて行く
⑨	合同企業説明会【前期】① 企業様からの説明を通して自身のキャリア発見と形成を促す	⑨	合同模擬面接会① 模擬面接を通して、就職活動における面接の準備をする。
⑩	合同企業説明会【前期】② 企業様からの説明を通して自身のキャリア発見と形成を促す	⑩	合同模擬面接会② 模擬面接を通して、就職活動における面接の準備をする。
⑪	イベント企画① エンターテイメントを創る上で必要となるリーダーシップ・アイデア・イノベーション力を身に付ける	⑪	企業訪問会① 実際の現場に行き、見学することでイメージの明確化を図る
⑫	イベント企画② エンターテイメントを創る上で必要となるリーダーシップ・アイデア・イノベーション力を身に付ける	⑫	企業訪問会② 実際の現場に行き、見学することでイメージの明確化を図る
⑬	イベント企画③ エンターテイメントを創る上で必要となるリーダーシップ・アイデア・イノベーション力を身に付ける	⑬	企業訪問会③ 実際の現場に行き、見学することでイメージの明確化を図る
⑭	スケジュール把握による時間管理能力向上及び、授業アンケート実施における振り返る力の向上を図る	⑭	終業式/グリーンDAY スケジュール把握による時間管理能力向上及び、授業アンケート実施における振り返る力の向上を図る
⑮	前期まとめ	⑮	
準備学習 時間外学習	授業で学んだことを学校生活以外でも意識して自分の発展に努めてください。	評価方法	出席率とレポート評価
受講生への メッセージ	キャリア教育とは社会人になるための人間形成の一つの手段です。 一緒に色々な自分を発見して成長していきましょう！	使用教科書 教材 参考書	

2025年度 授業シラバス

科目名	進級制作	必修 選択	必修	年次	2	学科	デジタルメディア科昼間Ⅰ部・Ⅱ部
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	240 (16単位)	開講区分	通年

【授業の学習内容】
芝居をする上でのコミュニケーション能力の向上を図るシアターゲーム
台本を使って芝居する事で演技力・表現力を身につける

【到達目標】
舞台役者としての身構え、気構え、心構えを身に付け、舞台上に立てる役者を育てる。
心得を習得したうえで、We areBACを通し、即戦力となるような舞台人の育成する。

【教員の略歴】
俳優・お笑い・ラジオDJ・我武者羅応援団などマルチに活動する

前期		後期	
授業計画・内容		授業計画・内容	
①	シアターゲーム(ウォーミングアップ)・自己紹介・自己アピールについて考える	①	ミュージカル上演のためのレッスン
②	シアターゲーム(ウォーミングアップ)・台本『ドラマ台本』芝居に触れ楽しさを学ぶ①	②	読み合わせ①
③	シアターゲーム(ウォーミングアップ)・台本『ドラマ台本』芝居に触れ楽しさを学ぶ②	③	読み合わせ②
④	シアターゲーム(ウォーミングアップ)・台本『ドラマ台本』芝居に触れ楽しさを学ぶ③	④	台本シーン抜粋 レベルチェック
⑤	シアターゲーム(ウォーミングアップ)・エチュード 即興芝居でアドリブ力をつける	⑤	台本シーン抜粋 レベルチェック
⑥	シアターゲーム(ウォーミングアップ)・台本『アニメ作品』アニメ作品の台本で表現力をUPさせる①	⑥	台本シーン抜粋 レベルチェック
⑦	シアターゲーム(ウォーミングアップ)・台本『アニメ作品』アニメ作品の台本で表現力をUPさせる②	⑦	キャスティングオーディション
⑧	シアターゲーム(ウォーミングアップ)・台本『アニメ作品』アニメ作品の台本で表現力をUPさせる③	⑧	荒立ち稽古①
⑨	シアターゲーム(ウォーミングアップ)・台本『舞台作品』映像演技と舞台演技の違いを学ぶ①	⑨	荒立ち稽古②
⑩	シアターゲーム(ウォーミングアップ)・台本『舞台作品』映像演技と舞台演技の違いを学ぶ②	⑩	荒立ち稽古③
⑪	シアターゲーム(ウォーミングアップ)・台本『舞台作品』映像演技と舞台演技の違いを学ぶ③	⑪	立ち稽古①
⑫	夏休みの課題発表『好きな作品のコピー』	⑫	立ち稽古②
⑬	座学『キャラクターの作り方』	⑬	立ち稽古③
⑭	総まとめ。本番に向けて自己演出力・表現力・コミュニケーション能力を鍛える	⑭	通しリハーサル①
⑮	前期試験課題『好きな作品のシーンを完全再現』	⑮	通しリハーサル②
準備学習 時間外学習	台本は次の授業までに必ず覚えてくる	評価方法	出席率・授業態度・課題
受講生への メッセージ	とにかく休まない事が大事。 みんなの本気を楽しみにしています。	使用教科書 教材 参考書	ホワイトボード